

募集施設名：東京警察病院救急科

募集人員：若干名

2018年4月時点で卒後3～5年目の医師（後期研修医）

卒後6年目以降の医師（救急科常勤医）

勤務開始時期・期間 2018年4月、1年間から

（開始時期・期間については相談可能です。）

募集内容

当科で目標とする救急・集中治療医は、

1. ER physician（ER 医）
2. Intensivist（集中治療医）

ですが、

1. 他科の専門医になりたいが、一時的に救急集中治療を勉強したい医師
2. 将来の希望科がまだ決まらない医師
3. 開業前で様々な救急疾患に接しておきたい医師
4. しばらく臨床から離れていたのので、元の科に戻る前に臨床になれておきたい医師

などの方も対象に考えています。

後期研修医としてこれから救急科研修を始める場合は、救急医学会認定の新プログラムでの研修をしていただきます。東京警察病院での研修を中心に、重症症例を豊富に経験できる東京医大救命救急センター・武蔵野赤十字病院救命救急センターや血液浄化療法が多い東京女子医大八千代医療センター救急救命センター、他のいくつかの病院を廻るプログラムです。

それ以外の後期研修医や救急科常勤医の場合は、3年または4年で救急専門医が習得できるように、ERと集中治療センター（ICU/CCU）を中心に、他大学のICUや救急科以外の研修など希望に応じて様々な内容を用意します。すでに専門医をお持ちの方にもさらにブラッシュアップできるようなシステムを考えます。

具体的には、

1年目は、院内の救急科に所属。

2年目からは、

救急科に所属したまま院内の他科の研修

半年から1年の長期ローテーション

週に半日または1日程度の研修

たとえば、1日の午前心エコー・消化器内視鏡、午後心臓カテーテル検査などの研修や、1日形成外科や整形外科に研修

半年から1年の他施設の長期ローテーション

など、自由に選択が可能です。

これまでの実績として、週1日の循環器内科での心エコー研修・放射線科研修・形成外科研修・麻酔科研修、2ヶ月の総合診療科研修などを行ってきました。

実際の勤務例を示します。

	月	火	水	木	金	土
午前	休み	心エコー研修	ICU/病棟	当直明け	ER	ER
午後	休み	ER	ICU/病棟		NST	ER
当直			ER 当直			

	月	火	水	木	金	土
午前	ER	ICU/病棟	当直明け	形成外科研修	休み	ER
午後	ER	ICU/病棟		形成外科研修	休み	ER
当直		ER 当直				

当科は、ER 診療と ICU 管理を行う Hybrid 型救急医療を目指しています。

ER では、来院方法にかかわらず、ほぼ全ての救急患者の初療を救急医が行う純粋な北米型 ER 方式をとっています。脳卒中や心筋梗塞などどんな疾患に対しても怖がることなく適切な初期診療ができるような救急医になることを基本に考えています。

ICU では、様々な最新機器をそろえており、多臓器不全・敗血症・重症肺炎・ARDS・薬物中毒・原因不明なショック・外科処置が必要な重症軟部組織感染症など、多診療科にまたがる複雑で重篤な病態に対応できるようになることを目指します。

当院の特徴として、

1. 病院全体として、救急医療をやろうとしている体制がある。
2. ER でありがちな他科との軋轢が少ない。
3. 救急科のみで救急専門医・集中治療専門医などの資格の習得が可能。
(救急科専門医は2名で7月からは3名、集中治療専門医1名が所属)
4. Off-the-job training として院内 BLS や ICLS などの活動を実施。
5. 災害医療として日本 DMAT への参加が可能。現在1チームあり。

などがあります。

実際に、整形外科専門医と脱臼の整復やシーネを巻いたり、形成外科と縫合処置したりすることができます。さらに当科には外科指導医が常勤として勤務しており、院内専門科と連携して緊急手術に参加することも可能です。

将来的には、「ER 型救急」、「集中治療」、「外傷・Acute care surgery」のみならず、総合診療内科と綿密な関係を保ちながら、「総合内科・プライマリケア」を4つの軸とした新しい形の救急センターを目指しています。

学会活動も積極的に行っています。初期研修医も含め医局全体で、救急医学会や集中治療医学会などに年間10題程度発表しています。病院のサポートもしっかりしており、演者であれば交通費と宿泊費がでます。共同演者も二人まで同様に支給されます。

勤務形態

完全週休2日制です。休日は日曜日と他の週日で、休みの曜日は自由に決められ、ここでアルバイトが可能です。ただし土曜日は通常勤務になります。

勤務時間は、基本的には病院の勤務態勢に準じますが、通常の常勤医以外にもお子さんが小さいなどの事情がある場合は、日勤のみの勤務も可能です。現在、1名の女性医師が週2日のパート医として勤務をしています。できるだけ女性のワークライフバランスにも配慮しています。

日勤業務は、ERでの救急車対応とICU・一般病棟の受け持ち患者対応です。救急センター・一般救急病棟・集中治療センター（ICU/CCU）がおもな活動の場になります。

当直は、救急医の専門性により内科系と外科系当直に分かれて他科の医師に混じって救急車とWalk inの患者を担当します。当直明けの勤務は、午前中までとし、負担のない体制を作っていきます。

病院紹介はこちら

<http://www.emalliance.org/industry/establishment/%e6%9d%b1%e4%ba%ac%e8%ad%a6%e5%af%9f%e7%97%85%e9%99%a2-%e6%95%91%e6%80%a5%e7%a7%91>

<http://www.jseptic.com/program/tokyokeisatsu.html>

をご覧ください。

最後に、スタッフからの声です。

「診療で不安な点もすぐに相談できる環境」

これまで自分があまり経験していない領域の救急患者であっても、複数の救急科医師と一緒に診療するため、大きな不安はありません。二次救急病院では、救急専従医が一人しかいない、という施設も多い一方、私たちの施設では、救急対応を一人で抱え込むことがないように、救急科スタッフ全員で助け合っています。

「毎日夕方のカンファレンスでフィードバック」

月曜日から土曜日まで、夕方にはカンファレンスを行っています。日勤帯にERを受診した救急症例を救急科医師全員で振り返ります。診療を主に担当した医師が、簡単なプレゼンテーションをして、検査の結果をスタッフ全員で確認します。このカンファレンスは、皆が自由に発言できる開放的な雰囲気です。活発な議論の中で、今後の救急診療に活用できる新たな知識をたくさん得ることができます。

「教えることで自分も学ぶ」

東京警察病院救急科には、やる気にあふれる初期研修医が交代で年間を通してローテーションしてきます。自分の専門領域はもちろん、これまで培ってきた臨床経験を研修医に伝授することで、自分自身の知識を整理し、さらにアップデートする機会が得られます。初期研修医が元気な施設は活気があり、自分自身のモチベーション維持にもつながります。

当救急科は、救急科の専門医をめざす方以外にも、他科の専門医を目指す方、元の科に戻る前に臨床になれておきたい、開業前に様々な疾患に触れておきたい方も歓迎します

今までの専門性は心配ありません。スタッフ全員でサポートします。是非一度見学にいらして、医局の明るい雰囲気を確認し、現場をご覧ください。たくさんの方の見学をお持ちしております。

お問い合わせ先

〒164-8541

東京都中野区中野4丁目22番1号

東京警察病院救急科

金井尚之 mkanai@mvh.biglobe.ne.jp

東京警察病院人事課

高木大輔 jinji@keisatsubyoin.or.jp